

## 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、




お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



### ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

### ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	<b>警告</b> この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	<b>注意</b> この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## 警告

### 分解禁止



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または別紙のご相談窓口にご依頼ください。

### 水に注意



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。

### 異常に気づいたら



使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源アダプターのプラグをコンセントから抜く。(電池を使用している場合は、電池を本体から抜く。)

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または別紙のご相談窓口にご依頼ください。

### 電源 / 電源アダプター



電源アダプターは必ず交流 100V に接続する。エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、指定のものを使用する。(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発火などの原因になります。



濡れた手で電源アダプターのプラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。お手入れをする際は、必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。



電源アダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに乾拭きする。感電やショートのおそれがあります。

### 取り扱い



可動部を動かす際、指や手などをはさまないよう、充分注意する。けがをするおそれがあります。

## 注意


### 電源 / 電源アダプター




電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。





タコ足配線をしない。コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。


 電源アダプターコードやプラグがいたんときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。


 電源アダプターのプラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源アダプターのプラグを持って引き抜く。  
電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。


## 電池


 指定以外の電池を使用しない。  
火災、発熱、液漏れの原因になります。


 使い切りタイプの電池は、充電しない。  
充電すると液漏れや破裂の原因になります。


 乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師に相談する。  
失明や化学やけどなどのおそれがあります。


 電池は一度に全部を交換する。電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。また、種類の異なったもの（アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品の異なるものなど）を一緒に使用しない。  
発熱、発火、液漏れの原因になります。


 電池は乳幼児の手の届く所に保管しない。  
口に入れたりすると危険です。


 電池を分解しない。  
電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどや失明のおそれがあります。

 電池を火の中に入れない。  
破裂するおそれがあります。


 電池を金属製のネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒に持ち運んだり、保管しない。  
電池がショートし、発熱、破裂、火災のおそれがあります。


 電池はすべて+/-の極性通りに正しく入れる。  
正しく入れていない場合、発熱、発火、液漏れの原因になります。


 長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体から抜いておく。  
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。


 使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

## 接続


 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(O)にする。  
感電または機器の損傷のおそれがあります。


 分解/組立の手順は、必ず本取扱説明書の「組立手順」の通りに行く。  
誤った手順で組み立てると、機能が十分に働かなかったり、雑音発生の原因になったりします。


 取付ネジ1, 2は確実に締める。  
ゆるんだ状態でお使いになると、演奏時にガタついたり、雑音が発生したりする原因となります。


 エンドピンストッパーは確実に締めて固定する。  
ゆるんでいると、演奏中に楽器が落下する場合があります。


## 運搬 / 設置

 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。  
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。


 テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。  
デジタル回路を使用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。


 不安定な場所に立てない。  
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。


 楽器の移動の際は、ネックおよびベース本体ボディを持つ。  
側板ユニットのみを持って楽器を持ち上げると、側板ユニット故障の原因となります。


 本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。  
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。


## 取り扱い

 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。  
また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。  
本体が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。  
本体が破損する原因になります。

 大きな音量で長時間ヘッドフォン(イヤホン)を使用しない。  
聴覚障害の原因になります。

 弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。

 弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎない。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

# ごあいさつ

このたびはヤマハサイレントベース™をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。サイレントベース™の機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願い申し上げます。

## 目 次

安全上のご注意 .....	2
本体/付属品 .....	5
本体各部の名称 .....	6
演奏準備 .....	8
■ 調弦について .....	8
■ 側板ユニットの取り付け .....	10
■ エンドピンについて .....	11
■ ソフトケースへの収納 .....	11
■ 弦の交換について .....	12
■ ミュートについて .....	14
■ オプション商品の取り付け .....	14
電源の準備 .....	15
本体仕様 .....	16



### 音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。

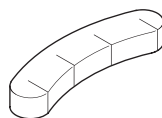
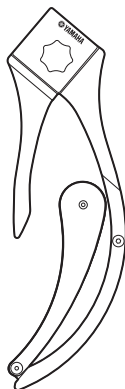
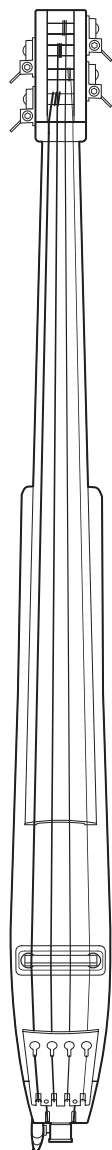
静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬ所で迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

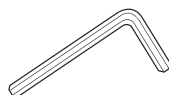
# 本体/付属品

パッケージを開けたら、本体および付属品を確認してください。

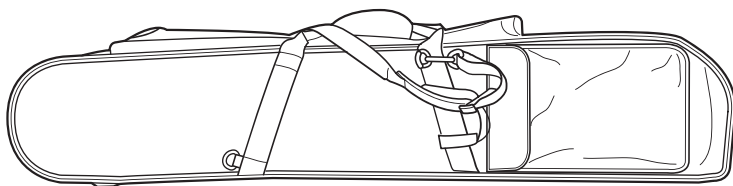
- 本体×1
- 側板ユニット×1
- エンドピン×1
- ミュート×1



- 六角レンチ×1



- ソフトケース×1



※ ご使用になる場合には、6F22(S-006P)9V 乾電池が必要です。

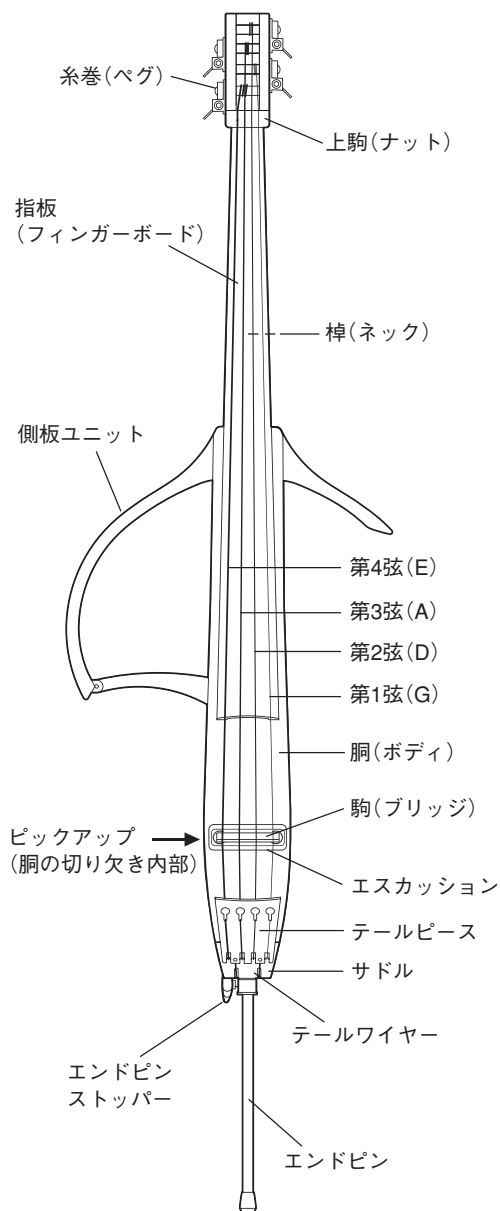
## オプション商品の紹介

- ・サイレントベース™用スタンド(BST1)
- ・サイレントベース™用ひざ当て(BKS2)
- ・サイレントベース™用延長フレーム(BEF2)

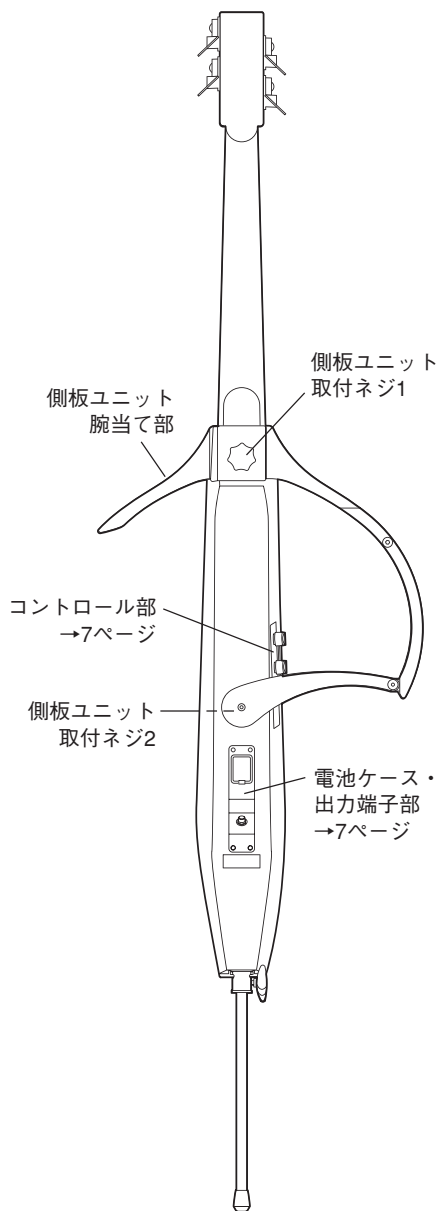
上記オプション商品をお求めの場合は、販売店にご相談ください。

# 本体各部の名称

## ●フロント部



## ●リア部



## ●電池ケース・出力端子部

電池ケース  
6F22(S-006P)  
9V 乾電池



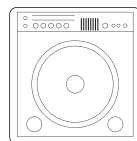
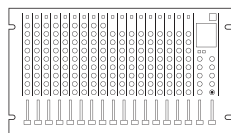
LINE OUT  
(外部出力) 端子

- 本楽器は出力端子に直接ヘッドフォンを挿入しても音は出ません。



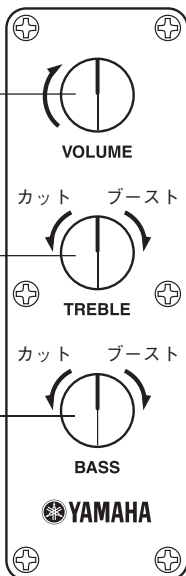
- 出力端子への接続は、必ずモノラルの標準フォーン出力端子への接続は、必ずモノラルの標準フォーンプラグケーブルを使用してください。ケーブルを差し込むことにより電源がONする回路になっていますので、ステレオやバランスなど端子が3分割されているケーブルを使用すると、楽器や接続した機器が正常に動作しなかったり、場合によっては破損するおそれがあります。

ミキサー、録音機器、ベースアンプ、  
パワードスピーカー、電子チューナーなど



## ●コントロール部

ボリューム  
コントロール  
音量を調整



トレブル  
コントロール  
高音を調整

ベース  
コントロール  
低音を調整

1. 出力端子にモノラルの標準フォーンプラグのケーブルを挿入することにより、電源がONの状態になります。

- 本楽器は省電力の為、電源ONを示すランプ等は装備していません。



- 出力接続は、ベースアンプ・パワードスピーカーなどの出力ボリュームを絞るか電源をOFFにした状態で行ってください。

2. 演奏してVOLUMEノブを回し、適度な音量になるように調整します。

- 強く弾いた際に音が歪む場合は、VOLUMEノブを少し左に戻してください。

3. TREBLEノブで高音の音質を、BASSノブで低音の音質を、調整(ブースト/カット)することができます。

- TREBLEおよびBASSノブをブースト側に回した場合、音が歪むことがあります。その場合はひずみの原因となったノブを少し左に戻してください。

# 演奏準備

## ■ 調弦について

出荷時、サイレントベース™の弦は通常の調弦状態よりゆるめてあります。

駒の高さは標準的な高さに調整してあります。

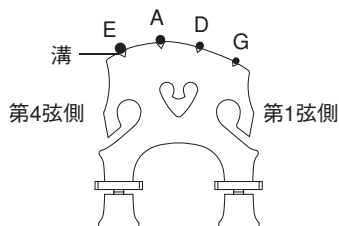
駒の位置は輸送中にずれる場合もありますので、正しい位置に調整した上で、調弦してください。

- 駒は上部の山が低い方が第1弦(G)側、高い方が第4弦(E)側です。横から見て大きくカーブしている面が、指板側(演奏時に上側)になります。【図1】

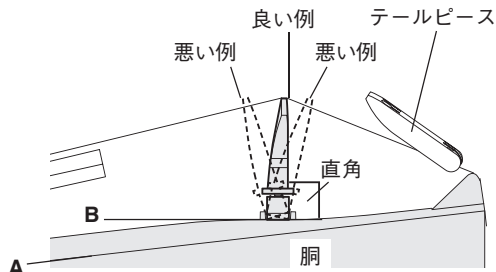
- 駒は、テールピース側の面が、駒の乗る面に対して垂直になるのが正しい位置です。【図2】

※ 駒の脚の側面がエスカッション(プラスチックの部品)に接触しない位置に配置してください。

- サイレントベース™の駒は、高さを調整することができます。金属性のダイヤルを時計方向に回すと低くなり、反時計方向に回すと高くなります。【図3】

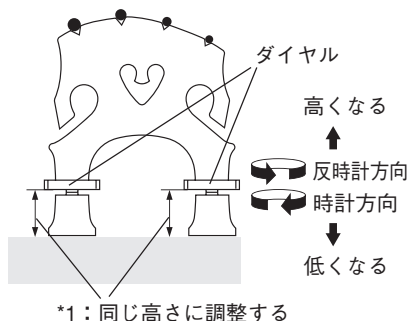


【図1：テールピース側から見た図】



※ 胴の上下合わせの面(上図A)と駒の乗る面(上図B)は平行ではありません。駒の垂直を確認する場合は、必ず駒の乗る面(上図B)に対して行ってください。

【図2：駒は垂直に立てる】



\*1：同じ高さに調整する

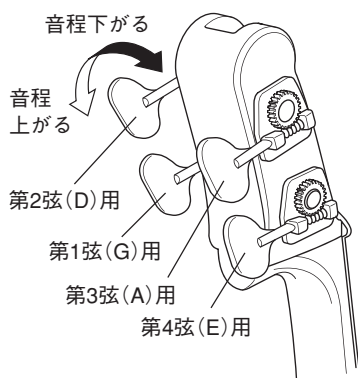
【図3：駒高さの調整】



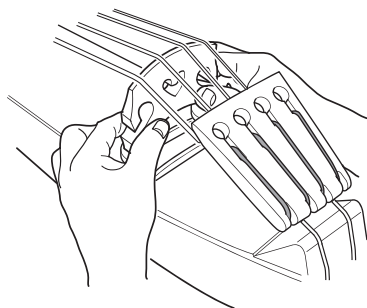
注意！

- 駒の高さ調整は、必ず弦をゆるめて、ダイヤルを回すのに大きな力が必要ない状態にしてから行ってください。弦の張力が通常のままで、無理にダイヤルを回しますと、駒や弦などの損傷の原因となります。
- 駒は、両方の脚の高さが必ず同じになるように調整してください。両方の脚の高さが違う状態で弦の張力を上げると、駒の底面が正しく接地せず、音質劣化や雑音、駒の損傷などの原因となります。(図3. \*1)

- 調弦は、第1弦がG音、第2弦がD音、第3弦がA音、第4弦がE音です。  
ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻を回してチューニングしてください。

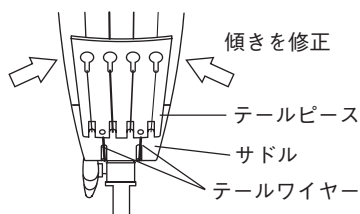


- 調弦後、駒のテールピース側の面が、駒の乗る面に対して垂直になっていることを確認してください。傾いている場合は弦を少しゆるめてから、駒を両手でそっと起こしてください。
- 調弦後、正面から見てテールピースが傾いている場合は、すべての弦を少しゆるめてから、テールピースがまっすぐになる様に手で直します。その後、全弦の張力をなるべく均等に上げていき、調弦し直します。(下図参照)



### 注意!

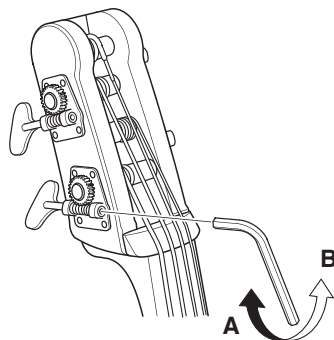
テールワイヤーが、正しくサドルの溝にはまっていることを確認してください。



### ● 糸巻のトルク調整

付属の六角レンチを使って、糸巻の回転トルクを調整することができます。

- ・トルクが弱く、軽い接触などでツマミが回ってしまう場合  
→ 調整ネジを右(時計方向: **A**)に回す。
- ・トルクが強く、チューニングがスムーズに行えない場合  
→ 調整ネジを左(反時計方向: **B**)に回す。





## ■ 側板ユニットの取り付け

出荷時、側板ユニットはサイレントベース™本体から外してあります。  
以下の手順で側板ユニットを本体に正しくセットしてからお使いください。

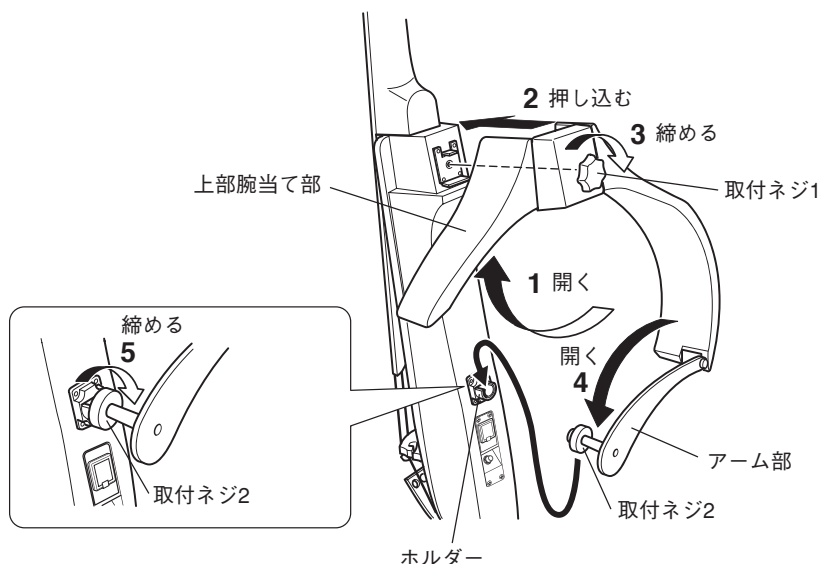
1. 側板ユニットの上部腕当て部を、ストッパーが当たるところまで開きます。
2. 側板ユニットの「取付ネジ2」が付くアーム部を閉じた(はね上がった)状態で、側板ユニット上部のくぼみをベース本体上部の肩に乗せるようにゆっくりと押し込みます。
3. 「取付ネジ1」を締め付けます。
4. アーム部を反時計方向に回転させて開き、「取付ネジ2」部をベース本体のホルダーに挿入します。
5. 「取付ネジ2」ネジを締め付け、ベース本体に固定します。



注意！

● 可動部を動かす際、指や手などはをさまないよう、充分注意してください。

これで、側板ユニットの取り付けは完了です。  
取り外す場合は、上記と逆の手順で行ってください。

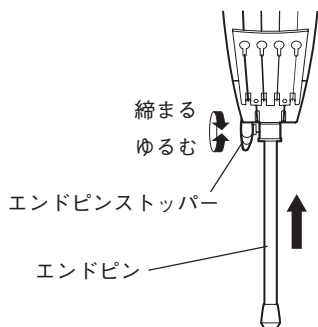


注意！

- 取付ネジ1, 2は確実に締めてください。ゆるんだ状態でお使いになると、演奏時にガタついたり、雑音が発生したりする原因となります。
- 駒は、楽器の移動の際は、ネックおよびベース本体ボディを持ってください。側板ユニットのみを持って楽器を持ち上げると、側板ユニット故障の原因となります。

## ■ エンドピンについて

出荷時、エンドピンはベース本体とは別にソフトケース内に収納されています。使用する前にエンドピンストッパーをゆるめ、エンドピンを挿入し、演奏しやすい高さの位置でエンドピンストッパーをしっかりと締めて固定します。



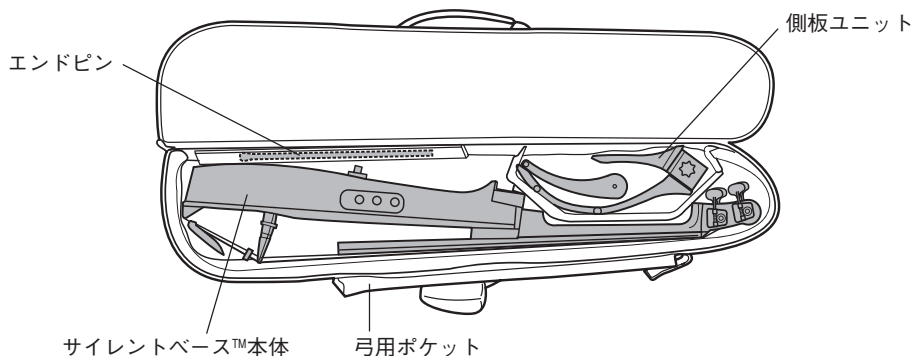
**注意！**

- 演奏中に楽器が落下しないよう、エンドピンストッパーは確実に締めて固定してください。
- 駒は、エンドピンは最適な演奏性を実現する為に、ベース本体に対して斜めに取り付けられており、奥まで挿入することができません。無理にそれ以上に挿入しようとしたり、衝撃を与えたりするとベース本体内部が破損するおそれがあります。エンドピンの出し入れはゆっくりとていねいに行ってください。

## ■ ソフトケースへの収納

付属の専用ソフトケースに収納する場合は、サイレントベース™から側板ユニット、エンドピンを外し、下図のようにして分けて入れてください。

- エンドピンは、ケース内のマジックテープでしっかりと固定してください。
- 弓を収納する際は、必ず弓用のハードケースに入れた上で、ソフトケースの弓用ポケットに入れてください。



**ソフトケースは、駒など各部品の損傷を保障するものではありません。**

ソフトケースは、あくまで携帯しての移動用、および楽器をホコリなどから守るための収納ケースです。駒面を下にして置いたり、物を乗せる、ぶつけるなど、衝撃を与えた場合には内部にある楽器及び付属品が破損することがあります。

## ■ 弦の交換について

弦は古くなると、音質が劣化し、調弦しても音程が合わなくなります。

弦が古くなったと感じたら、早めに新しい弦に交換しましょう。

弦は、弦長1,040mm(41インチ)に適合する、市販のコントラバス用弦をお買い求めください。

- 弦は一度にすべて外さず、必ず一本ずつ交換してください。



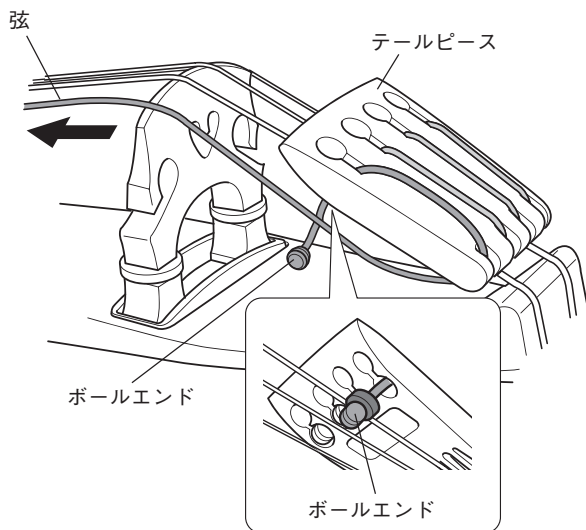
- 弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。
- 弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎないようにしてください。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

## 弦の巻き方

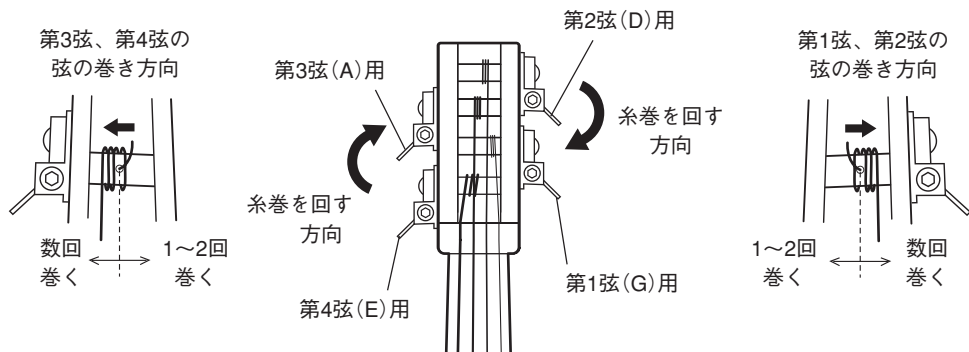
1. 弦の端のボール(ボールエンド)をテールピースの弦穴に引っ掛けます。この時、弦穴の溝にボールエンドを確実に収めてください。

\* ボールエンドが弦穴よりも大きい場合は、テールピース裏側から弦を通してください。

2. 弦をテールピース表側の面ぞいにエンドピン側へ引っ張り、テールピース端の溝に引っかけてからテールピース裏側に回し、次にブリッジに向けて張っていきます。



3. 弦を糸巻きの穴に通したら、糸巻きを回し、下図のように穴の片側に1～2回巻いてから穴のもう一方の側に巻いていきます。1～2回巻く側は、第1弦(G)、第2弦(D)は向かって左側、第3弦(A)、第4弦(E)は向かって右側です。



- 糸倉内側の壁に弦が当たらないように、弦端の余り長さを調整してください。  
弦が壁に強く当たった状態で調弦すると弦切れなどの原因となります。

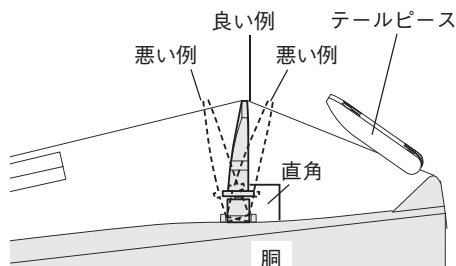
この時、駒が弦に引きずられて指板の方向に倒れないように注意してください。また、それぞれの弦が駒の溝に収まるようにセットしてください。

\* 駒は、テールピース側の面が、駒の乗る面に対して垂直になるように立ててください。

4. ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻きを回してチューニングします。

\* “**■ 調弦について**”(8ページ)の注意事項をご覧ください。

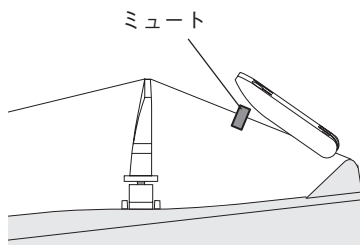
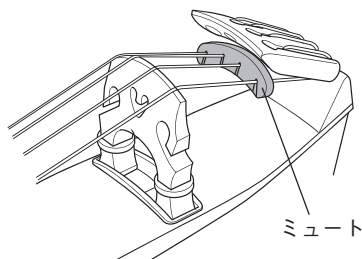
- 楽器を長時間使用しない時は、弦を少しゆるめて保管してください。
- 駒は常に駒の乗る面に対して垂直に立った状態であることを確認した上でお使いください。  
傾いた状態で使用すると、駒の寿命を縮めたり音質劣化の原因となります。



## ■ ミュートについて

ヤマハサイレントベース™は、楽器の構造上、駒とテールピース間の弦振動をピックアップが拾い、余音として残る場合があります。その音が気になる場合は、付属のミュートを下図のような位置に取り付けてください。

\* 駒とテールピース間の1/2付近の位置にミュートを取り付けると、ミュート効果が減少してしまいます。ご注意ください。



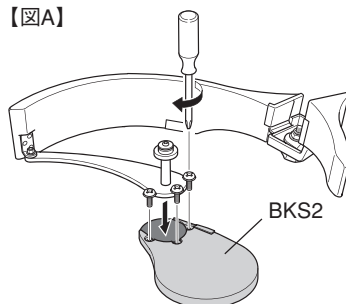
## ■ オプション商品の取り付け

### 【サイレントベース™用ひざ当て(BKS2)】

サイレントベース™用ひざ当て(BKS2)は、スツールなどに腰掛けて演奏する際に、左ひざで楽器を支えるためのオプション部品です。

下図Aのように、ひざ当てのくぼみに合わせて側板ユニットの金属部分をあてがい、3ヶ所のネジをガタつきがないようにしっかりと締め付けて固定します。

【図A】

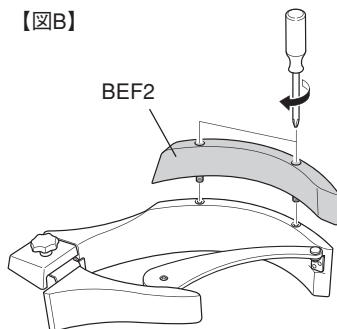


### 【サイレントベース™用延長フレーム(BEF2)】

サイレントベース™用延長フレーム(BEF2)は、側板ユニットの幅を延長して、楽器をより支えやすくするためのオプション部品です。

下図Bのように、2ヶ所のネジをガタつきがないようにしっかりと締め付けて固定します。

【図B】



注意！

- 駒オプション部品の取り付け/取り外しは、側板ユニットをベース本体から取り外して安定した場所に置いた上で、行ってください。

駒演奏の前に、オプション部品の取り付けにガタつきがないか確認してください。

# 電源の準備

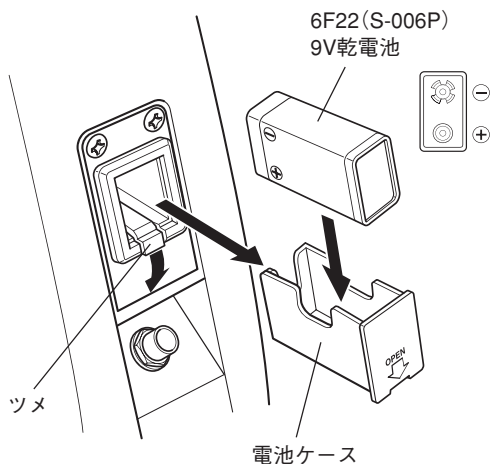
サイレントベース™は、電源として乾電池を使用します。

乾電池の出し入れをする際は、出力端子からケーブルを抜いてください。

1. 本体裏面にある電池ケースの、“OPEN”の矢印方向にツメを押し下げると電池ケースが出てきます。

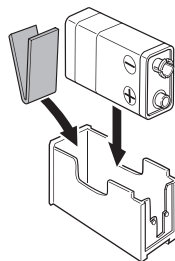
- 電池ケースを取り出す際、楽器本体の角度によっては電池ケースが飛び出す場合がありますので、ご注意ください。

2. 乾電池(6F22(S-006P)9V乾電池)をケースに入れます。イラストを参考に、向きと極性(+/-)を間違えないように入れてください。
3. 電池ケースをパチンと音がする所まで完全に押し込みます。



## 乾電池を入れる際の注意

電池の寸法が短くて通電しない(電源が入らない)場合は、下のイラストのようにバッテリーケースの底の部分に、厚紙などのスペーサーを挟んでご使用ください。



電池が少なくなると、音が歪んだりノイズが発生したりします。このような時は以下のことに注意して乾電池を交換してください。



注意！

- 電池の形状(電池端子および外形形状等)は、電池メーカーにより少しずつ異なります。電池ケースと異なる形状の電池を使用した場合、電池ケースへの挿入が困難となり、本体を破損するなどのおそれがあります。また、挿入できても電池端子との接触不良により、動作しなかったり発火するなどのおそれがあります。
- 乾電池は+/-の極性表示どおりに正しく入れてください。正しく入れていない場合、発火するおそれがあります。
- 長期間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いておいてください。乾電池が消耗し、液漏れにより本体を損傷するおそれがあります。

## ■ 本体仕様

棹	メイプル
胴	スプルーース+マホガニー
指板	ローズウッド
駒	メイプル(高さ調整可能)
側板ユニット	ブナ+アルミ他 金属部品
糸巻	ウォームギア方式
テールピース	エボニー(リバース方式)
弦	コントラバス用弦(ボールエンドタイプ)
センサー	ピエゾピックアップ
コントロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボリュームコントロール</li> <li>・ トレブルコントロール</li> <li>・ ベースコントロール</li> </ul>

**電源**

- ・ ケーブルの抜き差しによるパワー ON-OFF
- ・ 6F22(S-006P)/6LR61 : 9V乾電池×1個\*

\*充電式乾電池は使用不可

**電池寿命(通常連続使用時間)**  
 マンガン乾電池：約350時間  
 アルカリ乾電池：約500時間

**弦長** 1,040mm(41インチ)

**寸法(LxWxH)**  
**組立後寸法(側板ユニット取付、エンドピン最短状態)**  
 1,692×456×330 mm  
**ボディ本体寸法(側板ユニット、エンドピン共に取り外し状態)**  
 1,392×122×230 mm  
**側板ユニット寸法(折畳み状態)**  
 465×145×129 mm

**質量** 約7.2kg

※ 製品の規格および仕様は、改良の際、予告なく変更する場合があります。

